**今も起こっている宗教改革　 2017年10月29日**

**ヨハネ 8:31-36 スティンストラ牧師**

あまり有名ではない20世紀初頭のメキシコの銀行強盗ジョージロドリゲスを私が知ったのは数年前のことだった。国境を超えてテキサス州に忍び込み、小さな町の銀行を襲い、彼は有名になった。そして不正に獲得した現金をもってリオグランデ川を渡って急いで立ち去って行った。

アメリカ合衆国に入って略奪し成功を収めることは頻繁に起こっていた。正義の声が高まっていくなかで、それらの略奪事件は大きな嘆きであり、テキサス州の保安官はしばしば裁判に立たなければならなかった。そのような裁判は減少していったが、略奪事件は決して無くならなかった。そのような裁判が起こったことは、ジョージに略奪の計画を綿密に立てるように働いた。テキサス保安官は正しい時に正しい場所へ出向いたと思える事が二回ほど起こったが結局は犯人を逃がしてしまった。しかし、テキサスの保安官たちの存在は、ますます強盗事件が増加するというプレッシャーの中で、賢い無法者たちの逮捕に結びつく小さな失敗を起こさせるようになっていった。

そしてついにある午後の遅く、次のようなことが起こった。警戒していた保安官は、大きな袋を腕にかかえてひそかに国境付近に近づいて行く人物を発見した。保安官はその男が、ジョージロドリゲスが立ち寄るとうわさされていたほこりっぽい町のバーに入るまで遠くから追跡した。保安官は静かに店の中に入り、容疑者の後ろからしのびより銃を彼の頭につきつけ、「ジョージロドリゲス、動くな、私はテキサス州の保安官だ、われわれの銀行から盗んだすべての金を即刻返さないなら、おまえを撃つぞ。」

不幸なことに、ジョージは英語は一言もわからず、保安官はスペイン語は何も知らなかった。したがって彼らは緊張した状態でじっとするしかなかった。バーの中は10分間にわたって、だれもびくともしない静寂が訪れた。そしてついにだまって見ていた12歳ぐらいの男の子が、静寂をやぶって静かに前に歩み出た。彼は「私は少し英語をしゃべれます、セニョール、たぶんお互いにわかりあえるように助ける位には。」そう話した後、保安官の威嚇した言葉がジョージに伝えられた。すると彼はすぐに早口で自分の言語で長々と返答した。少年は悪名高い銀行強盗がしゃべるのをひたすら聞いた、「保安官に言ってくれ、俺は略奪したお金を1セントたりとも使う時間がなかった。保安官が北に向かって行くと、町には５つの石がならんでいるところを見つけるだろう。その中に簡単に動く石がある。その石を引っぱり出すと、その後に隠されている金を見つけるだろう。全部そこにあるんだと、保安官にすぐに言ってくれ、私の友よ。そうすれば、撃たれないですむから。」

ジョージがしゃべるのを止めたとき、少年はしばらくだまっていた、というのは適切な言葉を見つけるのに戸惑っていたようだった。そして保安官に向かってまじめに、強いアクセントのある英語で話し始めた。「ジョージロドリゲスはとても勇敢な男です。彼は死ぬ準備ができていることを、あなたに伝えるように話しています。」

私たちの人生ではとかく、全部を見た、知らなければならないことはみなわかった、もう世の中がどう動いていくのか知らないことはないと信じ始めてしまうことがよく起こる。現状理解でうまくいくと自分に言い聞かせ、もう自分の考えを変えることはないのだと感謝してしまうのだ。ところが、予測していなかったことに直面し、考えもしなかったことに対処しなければならなくなる。そして私たちがわかっていなかったすべてをわかろうとはしていないことに気がつくだけに終わるのだ、それは私たちを不健康にしてしまうことになる。たとえば、ジョージロドリゲスが自分の履歴書に第二言語を加えることがどれほどためになるかに気づきさえすれば、彼の将来のためにどれほど良かったのだろうかとか、彼の生活の糧を稼ぐためにまったく異なるアプローチをするように努力すればよかったとか。

リフォーメイションとは500年前の宗教改革を指しているが、この言葉は改革・改善という意味であり、もう終わったというものではない。なにかもう達成したこととして 過去の出来事にしてしまうことはできないもの。終わったものではなくて、いまも続いていること、毎日何か私たちが実践する事だ。神の民として信仰の成長の一部として改革・改善がある。本日の宗教改革記念主日にあって、現代の信仰者たちはただ500年前を振り返り先祖によってなしとげられた出来事を祝うだけに終わらせることはできない。この言葉の意味の通り、改革とは将来への教会の姿を求められ、皆がイエスの弟子として毎日の信仰生活の改善を迫られ続けるものだ。

今日の福音書の中で主が言わんとしていることはそういうことなのだと私は思う。主は当時の聴衆に向かってそのように述べたかったし、そして今もそう述べたいのだ、そのときに起こっている神とのダイナミックな関係に従事していくようにと。主は聴衆が御言葉を知り、そして自由に御言葉に交わるように望んでいる。その御言葉とは今も生きていて、ただ昔ながらの神学的な言葉をよく意味もわからずにおうむ返しのように繰り返すこととは異なるのだ。聴衆は救い主、メサイア、を待ち続けていると言うが、彼等は自分たちの目の前に立っている人物が救い主であるとは気がつかなかった、なぜなら主は彼らの頑な期待にそのまま応えるわけではなかったから。聴衆は自分たちの宗教上の経験を積み重ねて堅持しており、その伝統を保持する責任があると考えていた。彼等は自分たちこそが神との関係を保持する責務を負うのに相応しいと思い続けて、決して逆に考えようとはしなかった。自分たちを超えた何かを見ることはできない罠にはまってしまったかのようだった。彼等はイエスを見ることができなかった、それゆえ、彼等を永遠に自由にする真理についても理解できなかった。

自由への道で操縦を誤ってしまうなら、私たちも神の意図した道からそれてしまい不穏な道へと入り込んでしまう。忠誠心を減らし、神の御心に任せて神が望む姿になろうとするのではなく、自分たちでそうありたい方向へ行くことを決めてしまう。そして自分たちでその状態を説明できる限り、その状態が神の望む真理であり本物である状態よりはるかに低い状態であってもそれを良しとし満足してしまう。そして私たちはイエスの寛大で愛にあふれるキリスト教を、中身がからっぽな利己的なものに変えてしまう。

ありがたいことに、神は何度も顕れてくださり教会をどう改革してよいのかわかっていないことを理解していない人々が操る窒息死におとしいれる仕組みから逃れさせてくださる。神はあきらめてしまうのではなく、今も現に活きておられ教会を再建し、叱責し、また刷新する仕事に従事している。御言葉の力によって、復活の主は過去に閉じ込められてしまうことを拒否し、聖書の言葉を通して私たちの前に何度も顕れてくださる。そして私たちがいずれは主の望まれる聖なる姿になれるようにと、引き続き私たちを神の姿に似せて形成してくださろうとしている。なんども私たちの姿が変わることは、必ずしもいつも ものやわらかで心地よいものではない。鋭く、また痛々しいイエスとの出会いも、私たちを刺激して健全な調整が行われる上でしばしば不可欠となる。主なる神は、私たちが良き友ジョージロドリゲスのようになってしまうのではなく、学んで成長し変化し、福音書の中に顕された真理に向かって、いつも励み進んでいくように望んでおられる。アーメン